



# 固定資産台帳の整備について



砥部焼「生命の碧い星」  
国連欧州本部(スイス・ジュネーヴ)

平成26年6月24日

愛媛県砥部町企画財政課  
財政係長 田中 弘樹

# 目次

- I 資産台帳整備の流れ
- II 整備後の台帳管理
- III 砥部町の資産台帳紹介  
記載項目、対象範囲など

※総務省方式改訂モデルで、資産台帳を整備した流れを示しました。

# I 資産台帳整備の流れ

## ● 平成18年度

- 市販のデータベースソフト「アクセス」で資産台帳を作成。
- ✓ 税務担当課のデータ（土地台帳等）から砥部町名義の資産を抽出し、財政担当で物件の入力を行う。
- ✓ 建物等は、加入している保険の資料から物件を拾い財政担当が入力。取得価格が記されている場合もある。ただし、付随費用までは無理。
- ✓ 土地、建物の合計取得価格と、そのうち消費税及び地方消費税の額が分かる場合は、当時の消費税率から土地と建物それぞれの取得価格を算出することが可能となる。
- ✓ 構築・工作物、備品の登録は各担当課にお願いする。

## ● 平成19年度

- 財政係で把握しきれなかった物件や、それぞれの物件の詳細データは、各担当課で入力した。
- 入力にあたっては、入力説明会を開催。公会計、資産台帳の必要性などもこの時に説明している。
- 取得価格が不明な場合、土地は再評価額を取得価格とした。建物等は再調達価格。
- 施設別・事業別財務諸表の作成を意識し、資産台帳には、事業名や施設名などで分類できるような項目を用意。
- できるだけ民間に近い方法を採用することで、官民比較やアウトソーシングなどのときに有効な資料としたかった。そのため、物品10万円以上、建設仮勘定、リース資産、資本的支出(新規台帳登録)なども入力してもらうこととした。

## ● 平成21年度

- 平成20年度決算分(21年度公表)から、資産台帳を整備した財務諸表を公表。
- ✓ 決算統計から改訂モデルを一度作成し、その後、資産台帳データに寄せ換えていく。
  
- ◆ 今後、改訂モデルユーザーが資産台帳を整備する上で分かりにくいと思われる点
  - ✓ 道路、農林道、水路、ため池等
  - ✓ 意匠
  - ✓ 棚卸資産
  - ✓ 美術品や骨とう品など(寄付を受けたが、市場価格が不明など)

## II 整備後の台帳管理

- 資産台帳への入力は、資産を取得した担当課が行う。
- 入力の時期は担当に一任している。随時でも良いし、年度終了後一括登録としても良い。ちなみに、平成26年度（25年度決算分）のデータ入力期限は、決算書の財産に関する調書に使用する面積データは5月末まで、財務諸表作成に必要なデータは8月末までとしている。
- 砥部町では、資産管理を財政部門で担当しているため、土地や建物、登記とか保険の加入等の関係から資産の異動情報はかなり把握できる状況。普通財産の管理＝財政
- 備品は、会計課に提出される物品・重要物品現在高調書と資産台帳を照合する。両者は一致しているが、財政担当で現物との一致確認まではしていない。

### ➤ 計上漏れ等

資産の取得についてはあまり問題ないと思うが、寄付と除売却にあたっては注意が必要。特に寄付。資産を除売却する場合は、原則、普通財産に所管替えされているはず。そのため、普通財産を所管する資産管理部門と財政が連絡を密にすれば、除売却資産についても漏れなく対処できるのではないか。

### ➤ 計上誤り等

財政担当のチェックでどこまで確認できるかは不透明。職員研修などを通じて、多くの職員が公会計に対する意識を高めておくことがベスト。特に、財務会計システムと資産台帳が連動していない場合は要注意。

※担当が2～3年で人事異動になったり、部署内で担当が入れ替わったりする。熟知する前に変わってしまうため、公会計等に携わらなくなると、2年くらいで忘れてしまうことも多い。なかなか浸透しない。





## ● 建物、構築・工作物

- ✓ 名称、所在地、会計名、款、地区名（小学校区単位）
- ✓ 事業・施設名、形態（倉庫、校舎、図書館、作業場など）
- ✓ 寄付かどうか、貸付情報
- ✓ 決算書の財産に関する調書データ
- ✓ 地方債、国県補助金
- ✓ 取得年度、取得価格（設計など取得に要した付随費用含む）
- ✓ 本年度財源投入額（前年度以前に支出した設計や付随費用が取得価格に含まれていた場合）

※本年度財源投入額と建設仮勘定部分を分割把握。

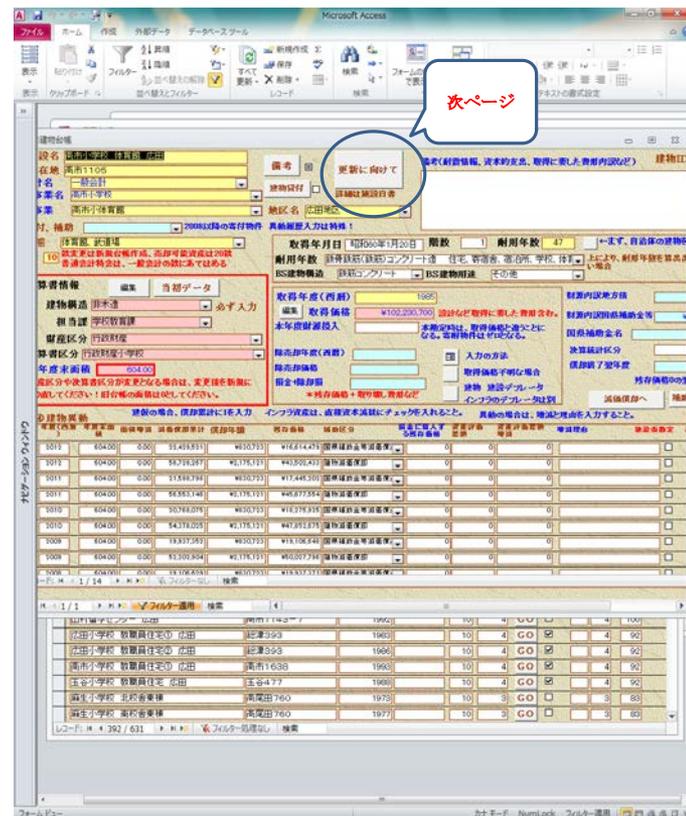
- ✓ 建物構造（鉄骨鉄筋コンクリート、鉄筋コンクリートなど）
- ✓ 取得年月日、階数、耐用年数
- ✓ 年度ごとの情報（償却累計、償却年額、残存価格など）
- ✓ 除売却年度、除売却金額、除売却時帳簿価格

※残存価格がなくなっても除売却されるまで入力を継続。

取得価格＝償却累計で入力⇒老朽化比率算定のため。

- ✓ 建設仮勘定チェック欄、直接資本減耗分チェック欄
- ✓ 資産評価差額、資産評価差額増減額

※法定外公共物への投資は、純資産変動計算書に臨時の支出として計上している。同じ工事等が長期に渡る場合は、行政コスト計算書に計上するつもり。過去、PLに計上したケースはなし。





## ● 備品(取得価格10万円以上を搭載)

- ✓ 名称、施設名、会計名、款、地区名（小学校区単位）
- ✓ 事業名、分類（車両、家具、冷暖房機器など）、形態（有形、無形など）
- ✓ 寄付かどうか、修繕履歴
- ✓ 地方債、国県補助金
- ✓ 取得年度、取得価格、耐用年数
- ✓ 年度ごとの情報
- ✓ 除売却年度、除売却金額、除売却時帳簿価格
- ✓ 図書、美術品、骨とう品は償却しない。時価評価(市場価格)困難。
- ✓ 意匠、のれん・・・金額換算困難
- ✓ リース資産チェック欄
- ✓ 資産評価差額

※棚卸資産・・・未計上

※ソフトウェア・・・法改正などの改修は金額の多寡にかかわらずコスト。機能追加やバージョンアップに伴う改修は新規に台帳を作成して登録する。

公会計

職員一丸！体当たり！！

絶え間ないイノベーションの創造へ

～ビジョン、責任、マネジメント～

公会計推進のため、町職員によるプロジェクトチームを立ち上げます。

平成26年6月11日

砥部町長 佐川秀紀